

障害を持つ人と社会

日立市立駒王中学校 三年 與澤 圭

僕は「光を失って心が見えたり全盲先生の
メッセーじ」を読みました。読みながら一番
心引かれたのは、気配りが逆に差別を生んで
しまうところですね。なぜ周りの人が
気を配っているのに、それが差別になるので
しょうか。普段から障害者に対する差別につ
いて思うところがあったので、さらに、障害
を持つ人に対して僕たち健常者はどうあるべ
きか考えることができました。

実は、僕の家族にも、障害を持つている人
がいます。母の妹、つまり、僕の叔母です。
叔母はダウン症です。

僕は小学校の頃、祖父母と叔母と、兄と僕
でよく旅行に出かけました。小学生で小さか
った僕ですが、僕たち家族で行動していると
き、こちらに向けられる視線は、差別的な視
線に感じました。何で僕たちはちらちらと
何度も見られなければならないのだろう、恥

おかしいなと思ってしまったのです。僕たち家族の横を通る観光客やホテルの従業員が叔母を見て、どう思っているのが気になって仕方がありませんでした。

ダウン症の人を初めて見た人もいるかもしれませんが。あるいはダウン症を知らない子どももがいて何か声を出し、それを親が注意していたのかもかもしれません。子どもの僕が嫌だなと感じたのですから、叔母もさうと何かを感じていたに違いないかもしれません。

それと同時に、近くの体育館で、ダウン症や自閉症などの障害を持つ人たちが集まったり体操をしたことを思い出しました。小学生だった僕はただ楽しかったことを覚えています。障害を持った人たちの集まりだったのです。周りが温かかったからです。

中学生になった今、叔母のことを周りの人がいんな風に見ていても恥ずかしいとは思いません。体の成長と共に、心も成長したのだと思います。障害者という目で見ることなく

個性を持った人として見るこの大切さを自分なりに感じ取ったからです。

叔母は、四年前にケアホームサービス（共同生活保護）を行っている施設に入居していただきます。定期的に家に帰ってきませんが、その時も以前と変わらず、僕たち家族は散歩に出かけたり買い物に出かけたりして外に出るようにならめています。

今年は、パラスポーツの年。目が見えなかったり、体の一部が不自由だったり障害

を持つ人多くの人が一堂に会し、技を競い合います。体が不自由でも、ルールを少し変えればみんなと楽しくスポーツをすることができると全世界に伝えられるはあです。

障害を持つ人が困難を乗り越えて頑張っている姿は、多くの人に感動を与えていると思います。障害があっても僕たちと同じ人間、立派な社会の一員です。違いを認め合い、差別のない社会を作っていきたいと思います。